





1 高須海岸

国安地区の海岸部は高須海岸といい、典型的な白砂青松の海辺で、石風呂や海水を利用した50mプール、2階建ての宿泊施設などを備えたレジャー施設であった。また、遠浅の地形を活かして、潮干狩りが盛んな時期もあった。

今は、昔日の賑わいはないが、今なお健在な松の木立の中に、交通公園とグラウンドがあり、静かにのんびり過すのには絶好のポイントである。

2 大慈庵とソテツ

開基した当時の住職と6代住職が植樹したといわれる12本のソテツ。これほど見事なソテツ群が見られる寺院は珍しい。

また、かつては庵の周囲を利用して競馬が行われていたこともあり、境内には馬頭観音堂が祀られている。三芳に競馬場があった頃は、馬主や調教師がお参りに来ていたという。33年に一度御開帳して、地域上げてのお祭をしている。平成20年がその年に当たる。

3 ウォーキングロード

東予総合支所（周布）から東予北地域交流センター（三芳）まで、市道楠浜北条線の約3.5kmは、旧東予市の中央部を貫く幹線道路であるとともに、ゆったりとした歩道が整備されていることから、折からのブームに乗って、格好のウォーキングロードとなっている。

多くの市民の要望に応える形で、平成13年にはこの区間全線に照明設備が整備され、夜間も多くの市民がウォーキングやジョギングを楽しむことができるようになった。

4 河上哲太翁の像

西条市新市出身の河上哲太翁は、大正から昭和にかけて、衆議院議員として国政の場で活躍した郷土の偉人である（当選9回）。議員を退いた後も、地域の発展のために尽力した。現在の国安公民館が建っている所には、「河上記念館」があり、一時期、記念館と公民館を兼ねていたこともあった。公民館前には翁の像があり、功績が記されている。そのご子息が初代東予市長河上辰男氏である。

5 周桑和紙

天保年間、農家の惨状を見かねた田中佐平翁が私財をなげうって、農家の副業として村内に指導したのが周桑和紙の始まりといわれる。戦後間もない頃、最盛期をむかえ、70軒もの業者があった。昭和40年代中頃までは、作業場のトタン板に漉いた和紙を干す、国安独特の風景が広がっていた。

現在も独特のぬくもりのある奉書紙・檀紙は全国シェアの90%を占めているが、伝統工芸として後継者問題に直面している。



大慈庵とソテツ



市道楠浜北条線のウォーキングロード



周桑和紙



東予西中学校のオリンピック優勝記念碑

6 田口信教（のぶたか）

田口信教氏は3大会連続でオリンピックに出場し、昭和47年のミュンヘン大会では男子100m平泳ぎの金メダリスト（200m平泳ぎは銅）となった。

田口氏は西条市の出身。中学2年で広島県尾道市に水泳留学するまで、国安に住んだ。子どもの頃、彼が泳ぎを覚えたのは、かつて集落内にくつつかあった農業用の湧水池の一つ、通称“カミノ池”であったが、今は埋め立てられ、国安上自治会が管理するコミュニティ広場になっている。母校の東予西中学校には、彼の簡単な経歴を記した「オリンピック優勝記念碑」が建てられている。名誉市民の一人。

7 国安・周敷藤原神社と子ども相撲大会

国安上には、周敷神社と藤原神社が一つの境内にある合殿形式の神社がある。周敷神社は旧東予市内に3社置かれたとされる式内社であるかどうかをめぐって、江戸時代に周布の周敷神社と論争した記録がある。往古は、高田と国安の中間あたりに鎮座していたが、水害が多く、宝暦3年（1753年）に現在地に遷座したという。藤原神社は応徳元年（1084年）に勧請されたもの。地区の秋祭りの初日（10月16日）に、境内で幼児から小学6年生までが参加して、相撲大会が奉納される。



国安・周敷藤原神社の子ども相撲大会

8 新市庵と獅子舞

羽嶽大権現、通称「まごぞみさん」と呼ばれ、石鎚蔵王大権現の金剛像などがある。

また、秋祭りにはみこしとともに、獅子舞が奉納される。この獅子舞は庵ができた頃から途切れることなく続いており、新市地区の大切な文化財である。

9 新町の石敢當（せきかんとう）

新町という集落の歴史は比較的新しく、寛永18年（1641年）松山藩主松平定行が藩内に3箇所作らせた町の内の一つ（あと2つは旧北条市の風早と丹原）。江戸時代は商業地として繁栄を極めた。

集落の南端にある巨大な石燈籠を石敢當という。明治元年桑村郡の庄屋22名による建立。当時はまだ町勢が盛んで、横行する盗賊に対する防犯灯の役割を兼ねた、隆盛祈願の建立と言われている。また、琴平宮を参拝するためにその方向を向いて建っているといわれている。



新町の石敢當

10 河野通堯（みちたか）公の墓

佐々久山北端の五輪の塔が、河野通堯の墓と伝えられる。天授5年（1379年）、阿・讃・土の兵4万を率いた細川頼之が伊予に侵攻。このとき河野勢7千騎は佐々久山に陣を敷く。本陣に100の兵を残し、新居・宇摩で待伏せの策をとるが、内通する者があり、山地を迂回して侵攻した細川勢の夜討を受け、通堯は、西園寺、得能、吉岡ら一門と割腹して果てた。

甲賀神社にも一門の武将を祀った小祠がある。



林芙美子の“帰郷”（佐々久山）

11 林芙美子の石碑

「放浪記」で知られる林芙美子の実の父親は、旧東予市新町の出身。地域の研究者やまちづくりグループの活動により、従来の通説では冷淡であるとされていたこの父親と芙美子の関係が、徐々に明らかになってきている。芙美子が父に宛てた手紙やこの地を訪れたときに得たとされる詩の石碑、父親の生家など、彼女の心の軌跡を追うことができる。

吉岡地区・新町には、芙美子の実父・宮田麻太郎の生家跡がある。また、彼女が祖父（麻太郎の父）の葬儀に参列するため、生涯に一度だけ“帰郷”したが、そのとき、生家から南へ300mほど行ったところにある佐々久山という小高い丘に登って、壬生川の町を見下ろしたことが知られている。そのときに得たとされる詩「帰郷」の石碑が同所に建立されている。

壬生川駅前には父に宛てた手紙の石碑、北条の通所介護センター「まほろば」の2階には、地元研究者が収集した芙美子に関する資料の展示コーナーがある。



林芙美子の“手紙”（壬生川駅前）

12 佐々久神社と古戦場

道前平野の西寄り、旧東予市と旧丹原町の境辺りの小高い丘を佐々久山という。その丘の中央にある佐々久神社は、仁徳天皇の崩御に際し、万民がその徳を慕って建立したものとされている。周桑地域にある延喜式神社3社の内2社が吉岡地区にあり、そのうちの一つで、祭神はおおさぎのみこと大鶴鷲尊、かみやいのみこと神八井耳命。

また、佐々久山は南北朝時代の古戦場であり、伊予の守護職・河野通堯とその義弟・西園寺公俊の墓がある。両将の位牌は安用の善光寺に安置されている。

13 千丈ヶ原

佐々久山の北、新町から大明神川に至る地域「甲賀原」は、南北朝時代から戦国期にかけて、数回にわたり戦場となった地域である。特に、細川氏の再度の侵攻に際しては、この地が伊予と河野氏の命運をかける戦場となったところである。



甲賀神社から望む佐々久山



甲賀神社殿

14 甲賀神社の祈請文と古墳群

正式の社名を、「^{ごんたまかぶとかがます}護運玉甲甲賀益八幡神社」という。仲哀帝、神功皇后西幸の折、この山に登り神祇を礼典したという伝説が残っている古社で、^{さるたひこのみこと}猿田彦命、応神天皇等を祭神とする。南北朝時代には、両朝ともが祈願所にしたといわれ、阿波の三好氏が侵入したとき、河野以下伊予の軍勢が戦勝祈願をした祈請文（市指定の重要文化財）が残る。

神社の周りには、6世紀後半から7世紀初頭のものとは推定される古墳時代後期の古墳群がある。また、その形状から、甲賀山自体が前方後円墳ではないかという伝承もある。

15 観念寺と象ヶ森城、片山古墳

延応2年（1240年）、新居一族によって建立されたといわれる古刹。本堂、山門、石垣、宝篋印塔などが市指定文化財となっている。特に“吞海楼”といわれる重層の入母屋造りの山門は、竜宮門のような風格があり、「観念寺の門を見ずして結構言うな」と言われるほどの名建築。

また寺に伝わる102通の古文書（県指定文化財）は、中世から近世の郷土史を研究する上で貴重な資料となっている。

後ろの山の山頂には、中世山城・象ヶ森城（吉岡城）址がある。また、北東に伸びる尾根上には、5世紀中頃の豪族の墓ではないかといわれる片山古墳があり、昭和35年の調査の際に発見された銅鏃^{やじり}は、当時、県下では3例目の出土で注目を集めた。

16 田口信教の記念碑と新池の古代遺跡

中学生の田口選手が練習に明け暮れたため池が、吉岡地区・上市に残されている。まちづくりグループの手によって、この通称「新池」の周辺には記念碑などが建てられ、のんびり散策するにはもってこいの遊歩道も整備されている。「新池物語」と題した記念の碑には、ちょっとジーンと来るエピソードや、田口選手本人、お父さんやお母さんの言葉が刻まれている。

また、近年の改修に伴う発掘により、この池の周辺から、弥生後期の生活の跡や、水霊を祀る祭祀に供したと思われる遺品が多数出土した。付近には、縄文遺跡や、一番山、二番山等の古墳もある。

17 阿曾岡山雑記

広岡部落入り口近くに、周囲150m程の小さな丘があり、これを阿曾岡と呼ぶ。河野功三郎源吉弘（三芳の行元氏の先祖といわれる）が拠った中世の山城跡で、天正8年（1580年）、新居の金子元宅^{もといえ}の侵攻によって落城した。

また、6世紀末の小型の前方後円墳でもある。

さらに、吉岡氏先祖の墓があるところともいわれ、明治時代に京都の吉岡氏、平成9年には神奈川県吉岡氏が、それぞれ全国の吉岡氏発祥の地として調査に来られた。

「いたずらずきのためぎ」や「庵寺と金の佛像」の昔話も残り、小さいながらも、実に多彩な伝承が残る、不思議な丘である。



観念寺の古文書



田口信教の記念碑



高須公園の松木立



周桑和紙



周敷藤原神社



甲賀神社祈請文



観念寺



新池